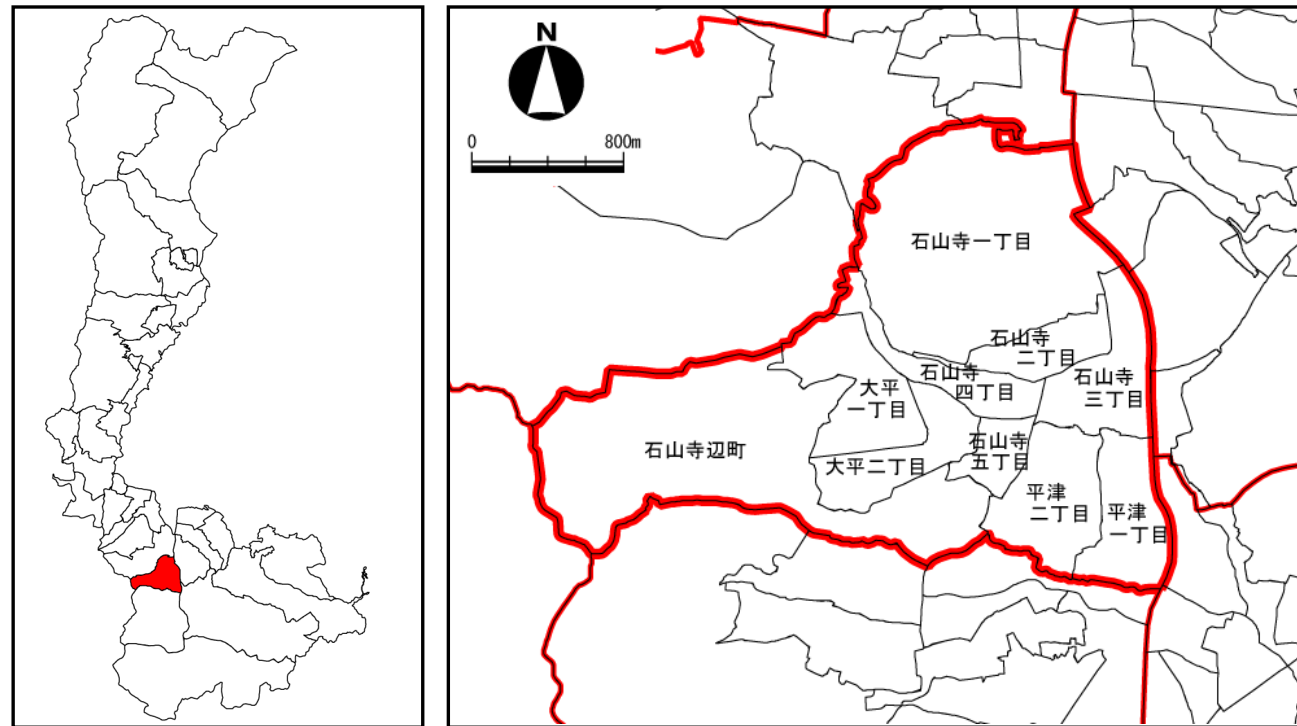


■ 学区の概況



<町丁名>

石山寺辺町、大平一丁目、大平二丁目、石山寺一丁目、石山寺二丁目、石山寺三丁目、石山寺四丁目、石山寺五丁目、平津一丁目、平津二丁目

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

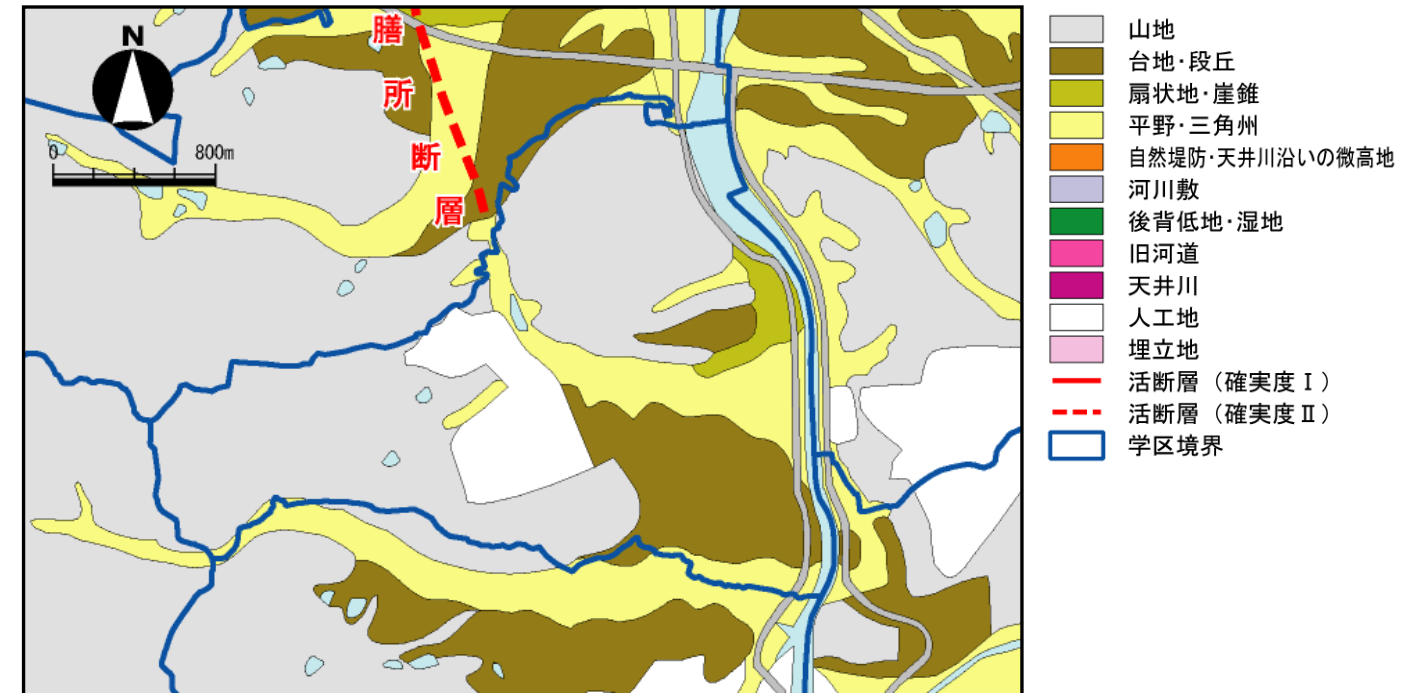
<学区の特徴>

縄文時代早期～前期の石山貝塚や蛭谷貝塚という市内で最も古い人々の定住遺跡があり、早くから拓けた地域であると言える。北部は伽藍山で晴嵐地域と境界をなし、西は大平山で京都市と境を接しており、そこから流れる多羅川が地域を横断する。この川に沿って緑道が整備され、散策路や通学路として親しまれている。

伽藍山にある石山寺は、7世紀後半に僧良弁によって開かれ、湖南における最大の寺院として人々の信仰を集めてきた。紫式部が源氏物語を書き上げたという伝説がある。また珪灰岩は天然記念物に指定されている。

昭和40年～50年代にかけての石山団地の開発で人口が急増した地域である。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 石山地域の地形は、北部と西部が山地、東南部が丘陵・台地や平野などの低地である。
- 石山寺一丁目付近ではやや傾斜を持つ扇状地、多羅川に沿った地区は低平な谷底低地に細分される。
- 平津地区の台地は、低位段丘と中位段丘に分けられる。石山地域で最も面積を占める丘陵地の大部分は宅地化により人工改変を受けている。

<地質の特徴>

- 西部の山地部は主に丹波帯とよばれる中生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 北部の伽藍山を中心とした山地部は、中生代の砂岩・頁岩・チャートからなる。このほか、石灰岩が花崗岩の貫入によって変成を受けた珪灰石などが産出し、石山寺の珪灰石は国の天然記念物に指定されている。
- 丘陵地は古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約200万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。

■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) ^(注1)	不燃領域率 (%) ^(注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
石山寺辺町	-	-	72.7	-
大平一丁目	44.4	77.7	72.4	55.8
大平二丁目	47.8	69.0	61.7	32.2
石山寺一丁目	97.5	99.2	71.1	68.5
石山寺二丁目	71.1	63.9	60.4	42.3
石山寺三丁目	53.8	80.8	75.9	31.0
石山寺四丁目	89.9	80.7	77.9	6.4
石山寺五丁目	58.9	74.0	82.6	18.8
平津一丁目	50.2	68.3	77.2	27.5
平津二丁目	50.1	81.3	77.8	43.4
学区平均	54.3	88.9	71.4	35.3
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 54.3 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より低い。
- 不燃領域率の学区平均は 88.9% で市平均の 93.9% より低い。
- 木造率は、石山寺五丁目 が 82.6% で最も高く、石山寺二丁目 が 60.4% で最も低い。学区平均は 71.4% で市平均 72.7% より低い。
- 旧耐震木造建物割合は、石山寺一丁目 が 68.5% で最も高く、石山寺四丁目 が 6.4% で最も低い。学区平均は 35.3% で市平均 40.3% より低い。

■ 人口の状況

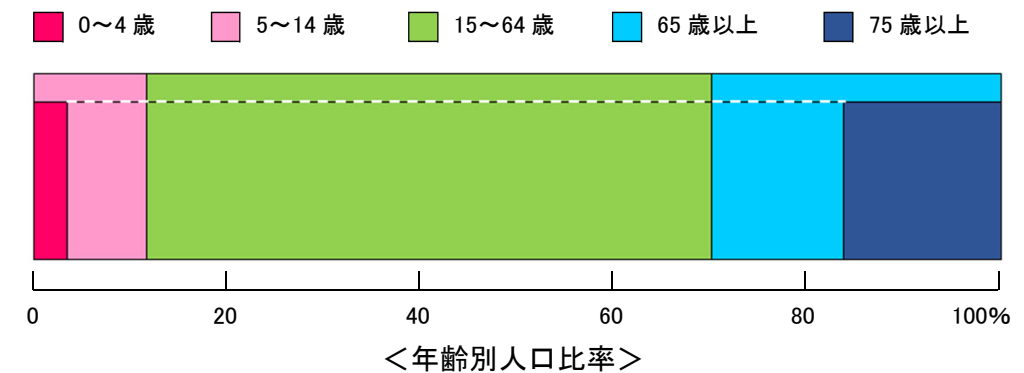
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	10,147	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	345	人	学区人口に対する割合	3.4	1
年齢別 (5~14 歳)	836	人	学区人口に対する割合	8.2	1
年齢別 (15~64 歳)	5,928	人	学区人口に対する割合	58.4	1
年齢別 (65 歳以上)	3,038	人	学区人口に対する割合	29.9	1
年齢別 (75 歳以上)	1,655	人	学区人口に対する割合	16.3	1
世帯数	4,861	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.1	人/世帯		-	2
要介護認定者	629	人	学区人口に対する割合	6.2	3
身体障害者 (要配慮者)	150	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者 (要配慮者)	31	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	172	人	学区人口に対する割合	1.7	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 学区南東部の平野・扇状地・段丘部と中央部の人工地は人口集中地区 (D I D 地区) である。
- 高齢者 (65 歳以上) は 3038 人、乳幼児 (0~4 歳) は 345 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 29.9%、3.4% である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より低い。
- 要介護認定者は 629 人 (6.2%)、身体障害者 (要配慮者) は 150 人 (1.5%)、知的障害者 (要配慮者) は 31 人 (0.3%) である。
- 外国人居住者は 172 人 (1.7%) である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 <small>(注1)</small>	16 箇所	1
土石流危険渓流 <small>(注1)</small>	7 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	28 箇所	2
土砂災害警戒区域 <small>(注1)(注2)</small>	42 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） <small>(注1)</small>	2 箇所	3
山地災害危険渓流（溪流） <small>(注1)</small>	3 箇所	3
雪崩危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	4
地すべり防止区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	5
地すべり危険箇所 <small>(注1)</small>	0 箇所	1
浸水想定区域 <small>(注3)</small> (0.0m~0.5m)	17,453 ㎡	6
(0.5m~1.0m)	2,404 ㎡	6
(1.0m~2.0m)	2,280 ㎡	6
(2.0m~)	2,282 ㎡	6
特に重要な水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
重要水防区域 <small>(注1)</small>	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 <small>(注1)</small>	6 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 石山学区では東南部の市街地部には防災上注意の必要な危険箇所の指定部は少ないが、北部や西部の山地の谷筋沿いは土石流危険渓流の影響範囲に指定されているところもある。
- 急傾斜地崩壊危険箇所も点在し、特に北東部の瀬田川沿いの斜面は広範囲にわたって急傾斜地崩壊危険箇所に指定されている。豪雨などの場合には、この土石流危険渓流及び急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要である。
- 学区内に土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所がある。
- 湖岸（瀬田川）沿いの低地部の一部には、琵琶湖湖面の上昇による浸水想定区域があるため、琵琶湖（瀬田川）からの浸水に注意が必要である。
- 地震時には、山地部で崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性があることにも留意する必要がある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	石山小学校グラウンド	○	○	○		石山寺三丁目 11-20
	石山中学校グラウンド	○	○	○		平津一丁目 23-1
	石山幼稚園グラウンド	○	○	○		石山寺三丁目 17-8
	大平保育園グラウンド	○	○	○		大平二丁目 33-22
	滋賀県立大津清陵高校グラウンド	○	○	○		大平一丁目 14-1
	石山公園（石山寺駐車場含む）	○	○	○		石山寺三丁目 2
	滋賀大学教育学部	○	○	○	○	平津二丁目 5-1 他
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	石山市民センター	○	○	○		石山寺三丁目 15-15
	石山小学校体育館	○	○	○		石山寺三丁目 11-20
	石山中学校体育館	○	○	○		平津一丁目 23-1
	石山幼稚園	○	○			石山寺三丁目 17-8
	石山市民体育館	○	○	○		石山寺三丁目 10-35
	滋賀県立大津清陵高校体育館	○	○	○		大平一丁目 14-1
指定避難所	石山中学校武道場			—		平津一丁目 23-1
	(福) 大平保育園			—		大平二丁目 33-22

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
石山市民センター	石山寺三丁目 15-15	537-0001

<警察 110>

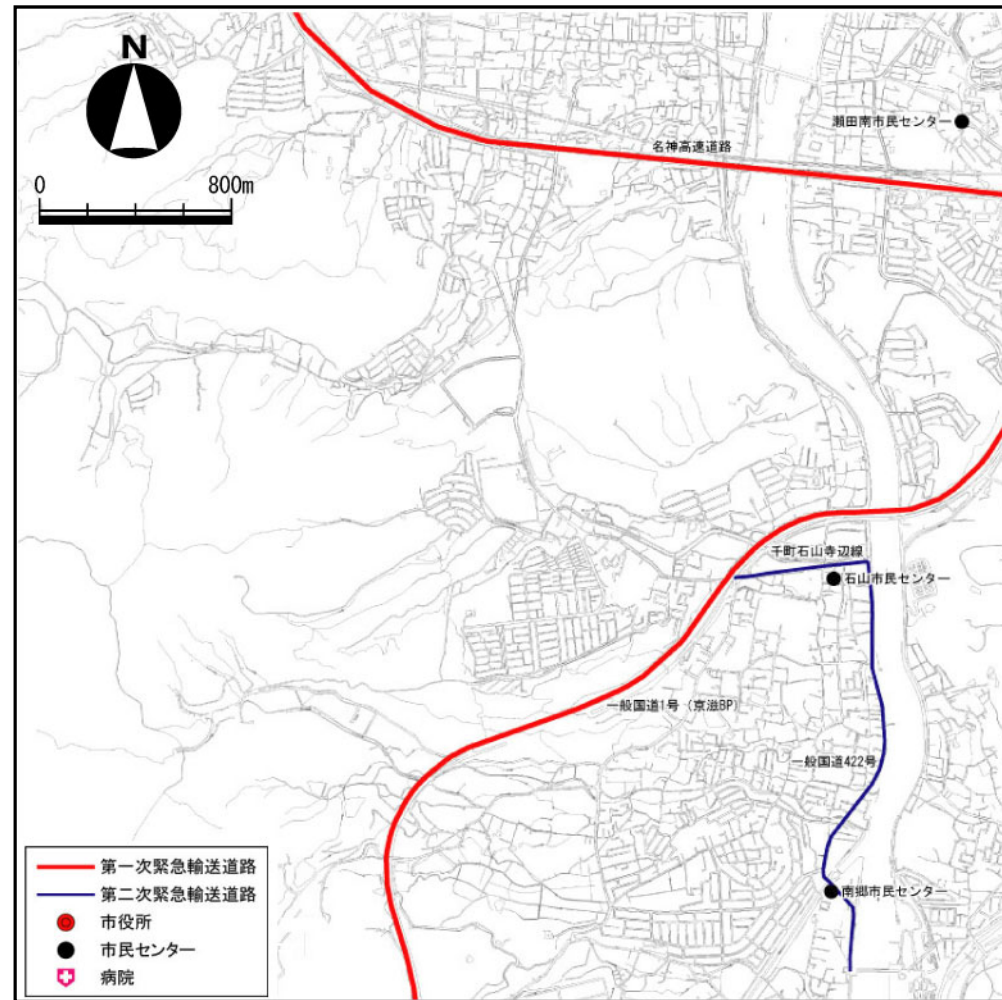
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
石山南郷交番	石山寺三丁目 21-1	537-4120

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
南消防署	光が丘町 5-7	533-0119
石山分団	石山寺三丁目 544-4	534-3856



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	2,704	11,300	3	290	148	1	0	0	76	39	49	8	4	5
ケース2	2,704	11,300	4	324	166	1	0	0	73	42	48	7	4	5
ケース3	2,704	11,300	1	242	122	0	0	0	61	33	40	6	3	4

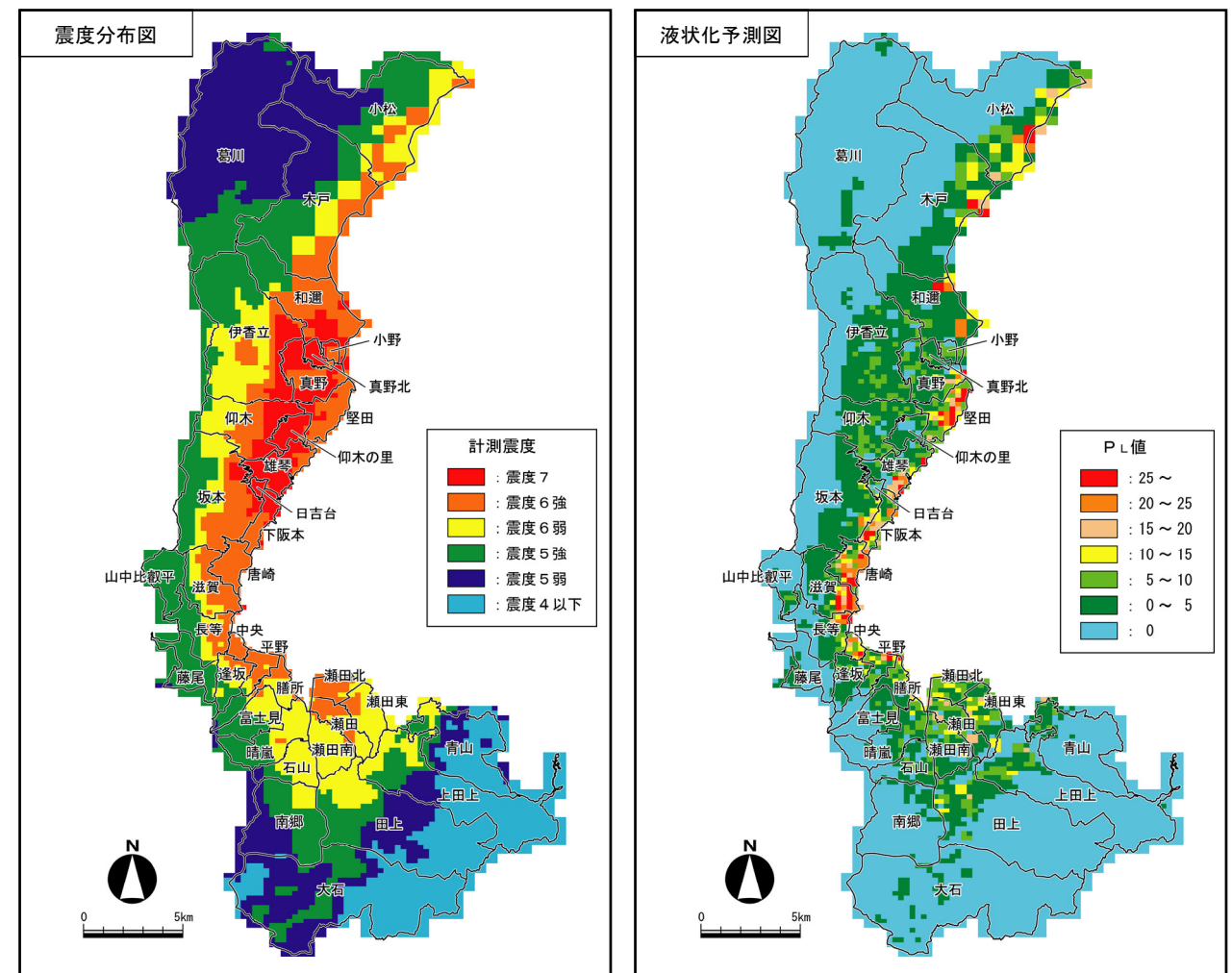
被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	0	0	0	363
ケース2	0	0	0	351
ケース3	0	0	0	293

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

